

PICK UP MATCH

文・山川南帆

関東学院大学 対 東京学芸大学

『JR 東日本カップ 2018 第 92 回関東大学サッカーリーグ戦』は第 21 節を迎え、いよいよラストスパートをかける時期となった。

関東学院大学は前節、1 部リーグ昇格の望みを残す日本体育大学と対戦。3 戦連続勝ちがなく、波に乗れずにいた関東学院大学。しかし先制点こそ決められたものの、後半には MF 見木友哉(3 年)、DF 伴武宏(2 年)、FW 奥直仁(3 年)のゴールで一気に 3 得点を獲得。嬉しい逆転勝利を取めた。石村大監督は「すでに昇格も降格もない中で、最大の目標は 3 位を目指すことだと、試合前から選手たちには言ってきた」と試合のモチベーションについて言及する。「日体大グラウンドは 2014 年に 1 部昇格を逃した会場。その借りを返すという意味でも、結果を出せてよかった」と満足顔。そのうえで連勝することが大切だと語り、今節の対戦相手である東京学芸大学の印象を「テクニカルな選手が多くそろっていて、個のクオリティーが高い。日体大戦以上の集中力がなければ、そう簡単には勝てる相手ではない」と話す。前節初出場の GK 園田悠太(2 年)、DF

北村椋太(2 年)、FW 藤藤翼(3 年)など、新戦力にもチームの底上げを期待したいところだ。

対する東学大は前節、MF 鈴木魁人(1 年)、FW 色摩雄貴(3 年)の活躍で前半に 2 得点を挙げるも、後半は立正大学の猛攻に遭い、同点まで持ち込まれた。逆転負けを喫した前期リーグの悪夢再来かと思われたが、GK 木村真(4 年)がファインセーブで逆転を許さず、勝点 1 を死守した。檜山康監督は「オープンな形になって、中盤の負担が大きくなってしまった」と試合を振り返り、「そんな中よく頑張った。引き分けはしょうがない」と選手をねぎらった。関学大に対しては「ここ何年か戦っていて、とても相性が悪い相手。今までのやり方では中盤がオープンな展開になってしまうので、そこをなんとかしたい」とコメント。MF 鈴木、住田将、武沢一翔ら中盤の 1 年生がカギになるだろう。前期の関学大戦(0●6)の雪辱を果たすためにも、この戦いは絶対に譲れない。

出場停止：なし
警告 3 回：北龍磨(関学大)
前期対戦成績：関学大 6-0 東学大

PICK UP MATCH

文・久保祐人

中央大学 対 日本体育大学

『JR 東日本カップ 2018 第 92 回関東大学サッカーリーグ戦』2 部リーグはついに第 21 節を迎え、残るは 2 節のみ。中央大学が 2 部リーグ優勝、1 部リーグ昇格を決めたことで、残る昇格チームはひとつとなった。また残留争いは 4 チームが勝点差 3 にひしめく混戦に。

すでに 16 年ぶりの 2 部優勝と 4 年ぶりの 1 部昇格を決めている中大。前節は、2 部の得点記録を塗り替える 21 得点目を叩き出した FW 大橋祐紀(4 年/湘南内定)などの活躍もあり、4-0 で神奈川大学に圧勝。自力での 2 部優勝を決めた。手塚聡監督は、「優勝が決まる試合で普段通り戦えたことが勝つ要因」と冷静に振り返った。後期はここまで無敗と、安定した力を見せているが、今節の相手は 3 位の日本体育大学。1 部リーグ昇格がかかっているだけに、「相当な気持ちをもって臨んでくるだろうが、それに負けないようにしっかりと戦う」と、手塚監督は王者らしく力強く語った。

対する日体大はまさかの 2 連敗。ここ 2 試合、悪い流れを止められず、大量失点で黒星を喫し、1 部復帰に向け足踏み状態にある。前節

の関東学院大学戦では、1 点を先制したものの後に 3 失点。矢野晴之介監督は、「苦しいときにバラバラになってしまい、踏ん張ることができなかったことが残念」と悔しさをにじませた。昇格のためにはもう負けられない状況の中、対戦相手は前期で 1-2 と敗れている首位の中大。しかし矢野監督は「相手がどうこうより、とにかく試合に集中して苦しいときに踏ん張れるか」が今節のポイントとどど語った。主将の DF 原田亘(4 年)を中心に、一丸となって昇格を目指す。

今節、日体大が引き分け以下に終わり、立正大が引き分け以上の結果となった場合、立正大の 1 部初昇格が決まる。しかし立正大が敗れ、日体大が勝利すれば勝点が並ぶ。奇しくも最終節は日体大と立正大の直接対決。はたして、昇格争いは最終節までもつれこむのか――。

出場停止：なし
警告 3 回：大橋祐紀(中大)、吉原大・勝崎大翔(日体大)
前期対戦成績：中大 2-1 日体大

JR 東日本カップ 2018 第 92 回関東大学サッカーリーグ戦



OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM

Division2 No.10(第 21 節)

発行：(一財)関東大学サッカー連盟

得点ランキング

- 21 点 大橋祐紀(中央大学)
- 10 点 石塚龍成(関東学院大学)
- 9 点 渡邊龍(日本体育大学)
- 9 点 見木友哉(関東学院大学)
- 9 点 松木駿之介(慶應義塾大学)
- 7 点 岡岡亮太(立正大学)
- 7 点 井上瑠聖(立教大学)

以下 6 得点 2 名

アシストランキング

- 5 アシスト 中村亮太郎(中央大学)
- 5 アシスト 鈴木康孝(立正大学)
- 5 アシスト 原田亘(日本体育大学)

以下 4 アシスト 8 名

前節(第 20 節)の結果

- 立正大学 2-2 東京学芸大学
- 青山学院大学 2-0 東海大学
- 慶應義塾大学 1-0 拓殖大学
- 立教大学 3-4 東京農業大学
- 日本体育大学 1-3 関東学院大学
- 中央大学 4-0 神奈川大学

JR 東日本カップ 2018 第 92 回関東大学サッカーリーグ戦 2 部

チーム名	中大	立正	日体	立教	青学	関学	慶大	東学	拓大	東海	東農	神大	勝点	試合数	勝数	分数	総得点	総失点	得失点差	順位
中央大学	1△1 0△0	2○1	4○2	3○1 6○0	0●2 2○2	3○0 2○1	2○0 1△1	1△1 3○2	2○1 3○1	4○1 2○1	2○1 4○0	47	20	14	5	1	48	19	29	1
立正大学	1△1 0△0	2○1	0●1 2○1	0●1 0●1	2○0 3○0	4○1 3○1	2△2 2△2	0●2 3○0	2△2 2○0	4○1 3○0	4○1 3○0	38	20	11	5	4	40	24	16	2
日本体育大学	1●2	1●2	1●2 2○1	1●2 5○4	1○1 1●5	0●1 1●5	1○0 1○0	3○2 1△1	3○2 1○0	0●1 0●1	2○1 1○0	35	20	11	2	7	30	28	2	3
立教大学	2●4	1○0 1●2	2○1 1●2	0●1 0●2	2○1 1△1	2○1 2○1	2●3 1○1	3○1 1●4	1○0 4○1	1○0 3○1	4○1 3○1	32	20	10	2	8	32	30	2	4
青山学院大学	1●3 0●6	0●2 1○0	0●1 4●5	1○0 2○0	3●4	1●3 0△0	1○0 2○1	2△2 2○1	1△1 2○0	1○0 3○0	3○2 0△0	31	20	9	4	7	27	31	-4	5
関東学院大学	2○0 2△2	3○1 0●3	1●2 3○1	1△2 1△1	4○3	2△2 1●2	6○0	0△0 1○0	0●1 4○0	2○1 0△0	1●2 6○1	29	20	8	5	7	36	25	11	6
慶應義塾大学	0●3 1●2	1●4 1●3	1△1 5○1	1●2	3○1 0△0	2△2 2○1	0△0 2○1	1△1 1○0	1●3 4○0	1△1 0△0	2○0	28	20	7	7	6	31	25	6	7
東京学芸大学	0●2 1△1	3●4 2△2	1○0 0●1	3○2 0●1	0●1 1●2	0●6 1○2	0△0 0●4	2○1 1△1	0△0 1○1	1○0 3○0	1△1 3○0	24	20	6	6	8	22	29	-7	8
拓殖大学	1△1 2●3	2○0 2●3	2●3 1△1	4○1	2△2 1○2	0△0 0●1	1△1 0●1	1●2 1△1	1△1 1△1	2△2 3○1	18	20	3	9	8	28	30	-2	9	
東海大学	1●2 1●3	2△2 0●2	0●1 0●1	1△1 0△0	0●2	1△1 0△0	0●4	0△0	1△1	2○1 4○0	0●2 1●2	18	20	4	6	10	17	28	-11	10
東京農業大学	1△4 1○3	2△2 0●3	1●2 0●1	1●4 4○3	0●1 1○5	1△2 0△0	0●1 0●3	1△1 0●3	1△1 2△2	2○0 1○0	1●2 1○0	16	20	4	4	12	19	43	-24	11
神奈川大学	1●2 0●4	1●2 0●1	1●2 1●3	2●3 0△0	2○3 1○0	0●2	1△1 0●3	2△2 1●3	2○0 2○1	1●2 0●1	15	20	4	3	13	19	37	-18	12	

サッカー部はジールで決める!

体育会系学生就職支援企業



2部リーグ優勝決定レポート

取材・文/飯嶋玲子

中央大学が悲願の2部優勝、1部昇格を決める

満を持しての優勝だった。2部リーグへの降格が決定したのは、現4年生が1年生だった2015年。1年での1部リーグ復帰を目指した2016年シーズンは、スタートダッシュに失敗し、5位という順位で終わった。昨季は前期こそ6位で終えたものの、後期リーグは10勝1敗と圧倒的な強さで1部昇格に肉薄するも、勝点2差に泣き、3位に甘んじた。

そして迎えた今季。中大はリーグ戦序盤から圧倒的な強さを見せ、後期は無敗で首位を独走。第19節で1部昇格を決め、臨んだ第20節の神奈川大学戦だった。しかし「他力で1部昇格が決まったので、どこか物足りないところがあった」と語るのは、GKの佐川雅寛(4年)。「だからこそ神大戦でしっかり勝ち、2部優勝と1部昇格を自分たちの手でもぎとった、と実感したいと思っていた」。

そんな選手たちの気持ちは、試合展開にも現れた。先制点は前半が開始してからわずか3分。エースのFW大橋祐紀(4年/湘南内定)がドリブルで起点をつくり、GKの弾いたボールを押し込んだ。この日はセンターバックの上島拓巳(4年)が出場停止だったが、

代わりに出場したDF深澤大輝(2年)とDF渡辺剛(4年/FC東京内定)を中心に、安定したディフェンスで神大の攻撃を完全にシャットアウト。後半の53分にMF中村亮太朗(3年)が追加点を決めると、70分にはMF加藤陸次樹(3年)がセットプレーの流れの中から、相手GKのこぼれ球を拾ってゴールに突き刺す。3-0とリードを広げても、「去年のことを考えれば、最後まで油断はできない」(渡辺)とする中大は攻撃の手を緩めない。78分にはFW大橋がドリブルで持ち込み、この試合2点目となるゴール。終わってみれば4-0と中大が圧倒し、悲願の2部優勝を決めた。

「最後まで全力でサッカーを楽しむ」(渡辺)という姿勢で臨んだ優勝決定戦。いつも以上の集中はあったが「もう少し緊張感があってもいいのに」と手塚聡監督が苦笑するほどの自然体で向き合えたことで、昨年、そして一昨年の「悪夢」は払拭できた。来年度の舞台は1部。「全部が厳しい戦いになるだろうが、全部勝てるようにがんばりたい」(中村)と、気持ちはすでに来季に向いている。



昨季の悔しさを糧に。満を持しての優勝！

～選手・監督優勝コメント～

【佐川雅寛(4年・GK)】

2部リーグに降格してからは、いいところまではいくけれど、あと少しで上がれないという苦しい日々が続きました。だからこそ自分たちの代で1部昇格を決めなければいけないと思っていました。前期の最終戦で関学大で敗れたとき、「自分たちはまだまだ」と再確認できたのもよかったです。中大は最初か勝てるチームだったわけではない。またイチからやりろうと思って後期に臨めたことが、この優勝と昇格につながったと思います。今は1部昇格と2部優勝を決めて、冷静にうれしい気持ちでいっぱいです。

【渡辺剛(4年・DF)】

1年生のときに降格してから3年間、ずっとこの日を待っていたのですごくほっとしています。最後まで全然油断はできなかったけれど、去年の教訓が今年に活きました。大学での4年間、個人的には中大にあまり貢献できなかったと思っています。自分のミスで負けた試合も多かったし、2部降格も自分のミスで決まったようなもの。でもこうして2部優勝、1部昇格できたことで、少しでも中大に恩返しできたのかな、と。来季1部で戦う後輩たちには、チャレンジャー精神をもって1部を楽しんでほしい。今年の早稲田大学のように、1部に昇格したその年に優勝することもあります。中大は上を狙えるチームなので、がんばってほしいです。

【大橋祐紀(4年・FW)】

早い時間帯に点が取れてよかったと思います。(先制点は)狙っていたというより、こぼれてきたというか。いいところきたな、という感じです。(2部リーグ最多得点記録更新の)21ゴールは、たまたま。チームメイトがつかないでくれたパスで取れたゴールだから、ひとりでは取れなかった。今年はずっと点が取れましたが、取れなかった試合もあります。その中でも後ろ(ディフェンス)に安定感があってし、

チーム全体の安定感があってこの結果につながったと思います。

【加藤陸次樹(3年・MF)】

2部優勝は素直にうれしいです。昨年は1部リーグに昇格できず苦しみましたが、昨年、一昨年にやってきたことが、この結果につながったと思います。今日は優勝が見えている試合だったので、やることはひとつだけ。チームのひとりとして走って、戦うだけでした。来季は1部。自分たちの代はタレントぞろいと言われていますが、はたして1部でどこまでやれるのか。個人的には、大学に入学してからずっと「やりたい」と話していた、法政大学にいる兄(加藤成吹樹・3年)とのマッチアップが最高に楽しみです。

【中村亮太朗(3年・MF)】

ゴールシーンは、タイミングよくボールを拾って中に入ったら、いいボールがきたという感じ。(パスを出した)今掛(航貴・2年)は、大橋くんを狙ったらいいんですけど(笑)、自分の前にきたので決めました。今年の4年生たちがチームを1部に上げてくれたので、来季はその思いを背負って、1部で戦いたい。自分たちの代はずっと2部で戦ってきたので、1部は初めて。厳しい戦いにはなるとは思いますが、全部勝てるようにがんばりたいです。

手塚聡 監督

このゲームに勝てば優勝が決まるということで、気持ちは入っていたようだが、いい意味でプレッシャーなく入れたのがよかった。昨季は本当に厳しく、勝点45でも3位だった。今年は勝点44で1部昇格、47で優勝。それでも勝点をひとつずつ積み重ねてきた結果が、この優勝だと思う。ただ、来季はもう少し質と自身を上向きさせなければ、1部では戦っていかねばならない。

NEXT MATCH

11/24
(土)

中央大学 vs 立教大学

中央大学多摩キャンパスサッカー場 11:30Kickoff

11/24
(土)

関東学院大学 vs 青山学院大学

栃木市総合運動公園陸上競技場 11:30Kickoff

11/24
(土)

慶應義塾大学 vs 神奈川大学

柏の葉公園総合競技場 11:30Kickoff

11/24
(土)

日本体育大学 vs 立正大学

県立保土ヶ谷公園サッカー場 11:30Kickoff

11/24
(土)

東京学芸大学 vs 東海大学

成田市中央運動公園陸上競技場 11:30Kickoff

11/24
(土)

拓殖大学 vs 東京農業大学

埼玉スタジアム2002第2グラウンド 11:30Kickoff

【平成30年度 第51回関東大学サッカー大会】(関東リーグ昇格決定戦)開催中！

決定戦は「明治学院大学対産業能率大学」、「日本大学対山梨学院大学」となりました。それぞれの試合に勝利した2校が、来季の関東大学2部リーグに昇格します。